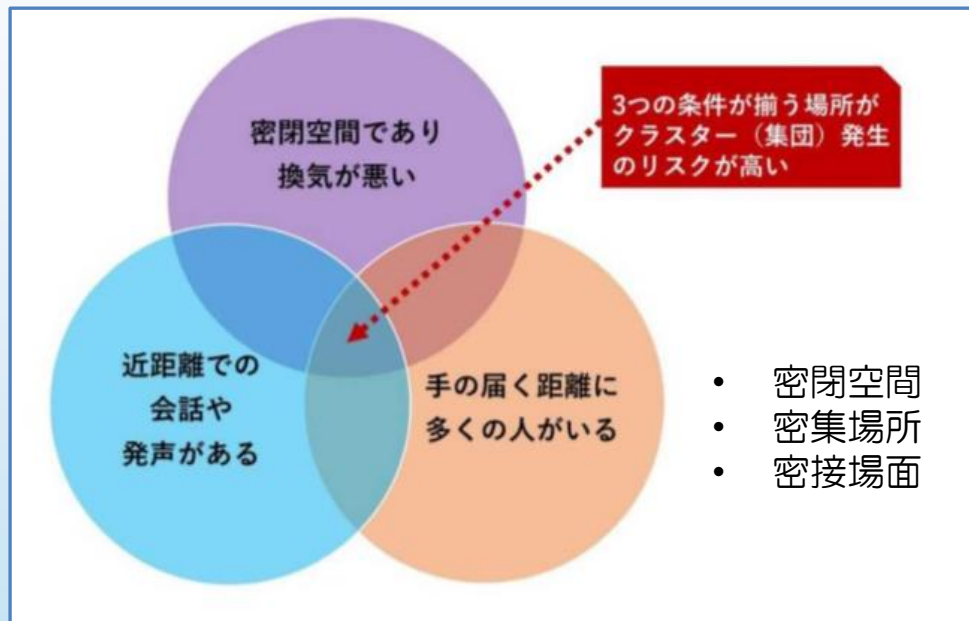


京都情報大学院大学における コロナ対策eラーニング

京都情報大学院大学 寺下陽一

新型コロナウイルスへの対抗策

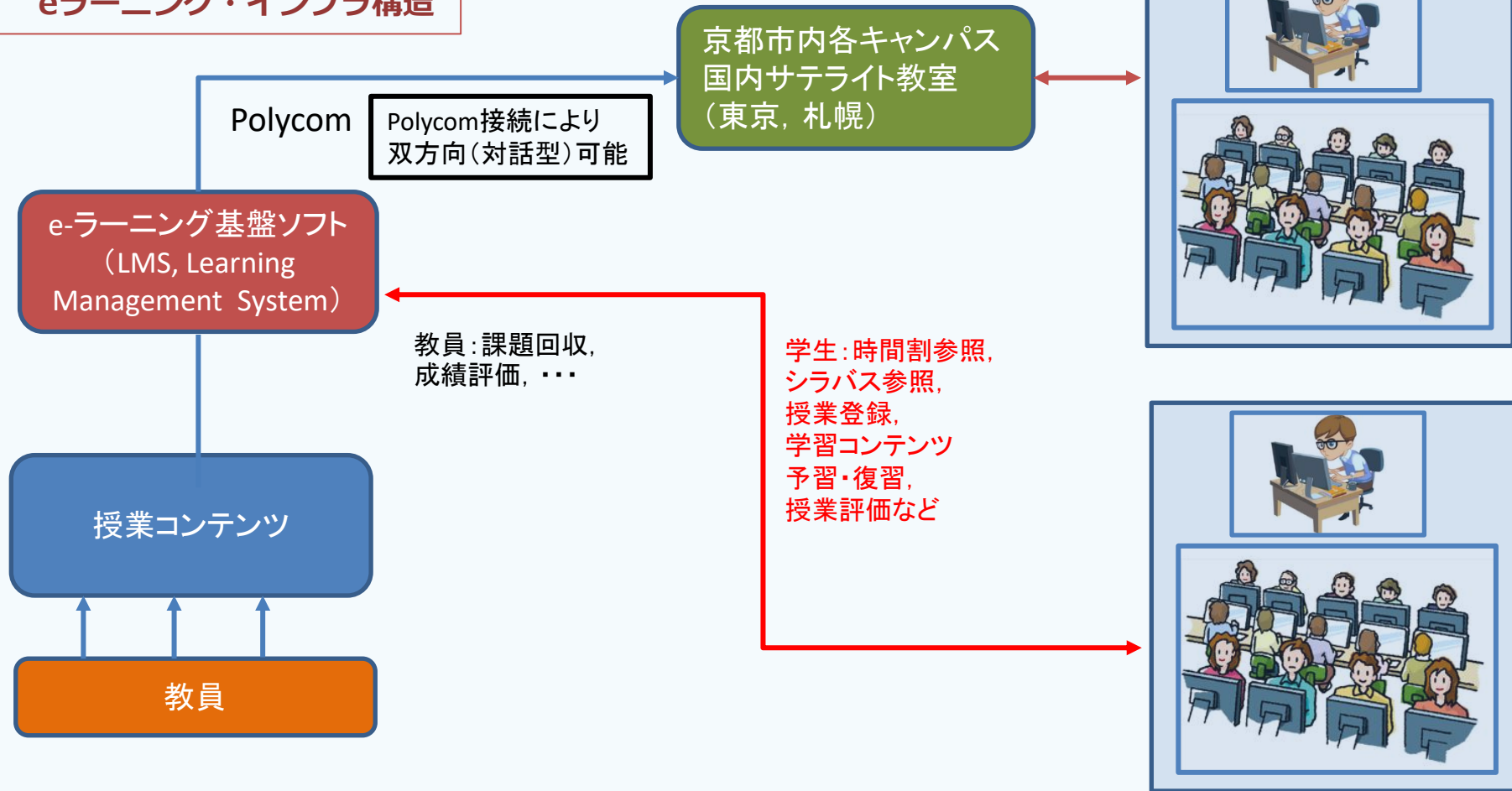
- コロナ型感染症対策の基本方針 ⇒ 三密の回避



- 学校における通常の学習環境は三密が揃っている

(図は文部科学省通達文より)

京都情報大学院大学における eラーニング・インフラ構造



LMS (Learning Management System)

- LMSはeラーニング授業の基盤システム — KING-LMS
 - 学生基本情報管理
 - 授業登録
 - 学習管理
 - カリキュラム・時間割管理
 - 授業コンテンツ管理

授業コンテンツの作成

- 教員が担当科目の授業用コンテンツを作成し，LMSの管理下にあるデータベースに保存しておく
 - PPT
 - 映像・画像
 - インターネット資源
 - 等々
- 授業コンテンツはアクセス権管理をもとに教員，学生がアクセス可能

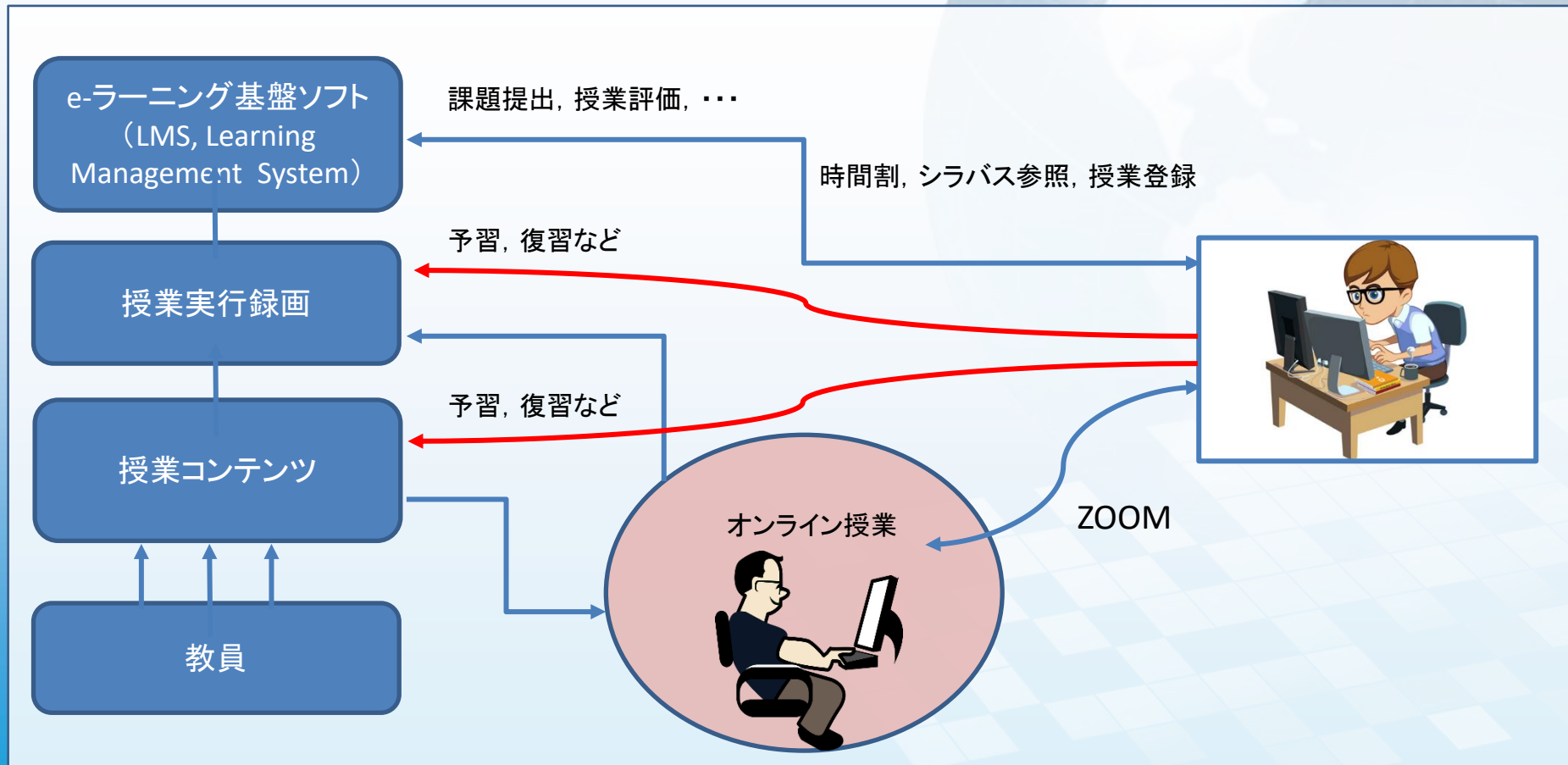
従来型授業形式からの脱皮

- 教室での授業は問題外
- 学校の建物に学生は入れない
- 学校は自宅（下宿）にいる学生に直接アクセスできる
- eラーニングシステムを基に在宅オンライン授業
 - 各学生がコンピュータ，インターネット接続を有する
 - 学校側はeラーニングインフラを有する
 - 教員はeラーニング環境に馴染んでいる
 - 学生の学習記録を確実に管理できるシステム
 - . . .

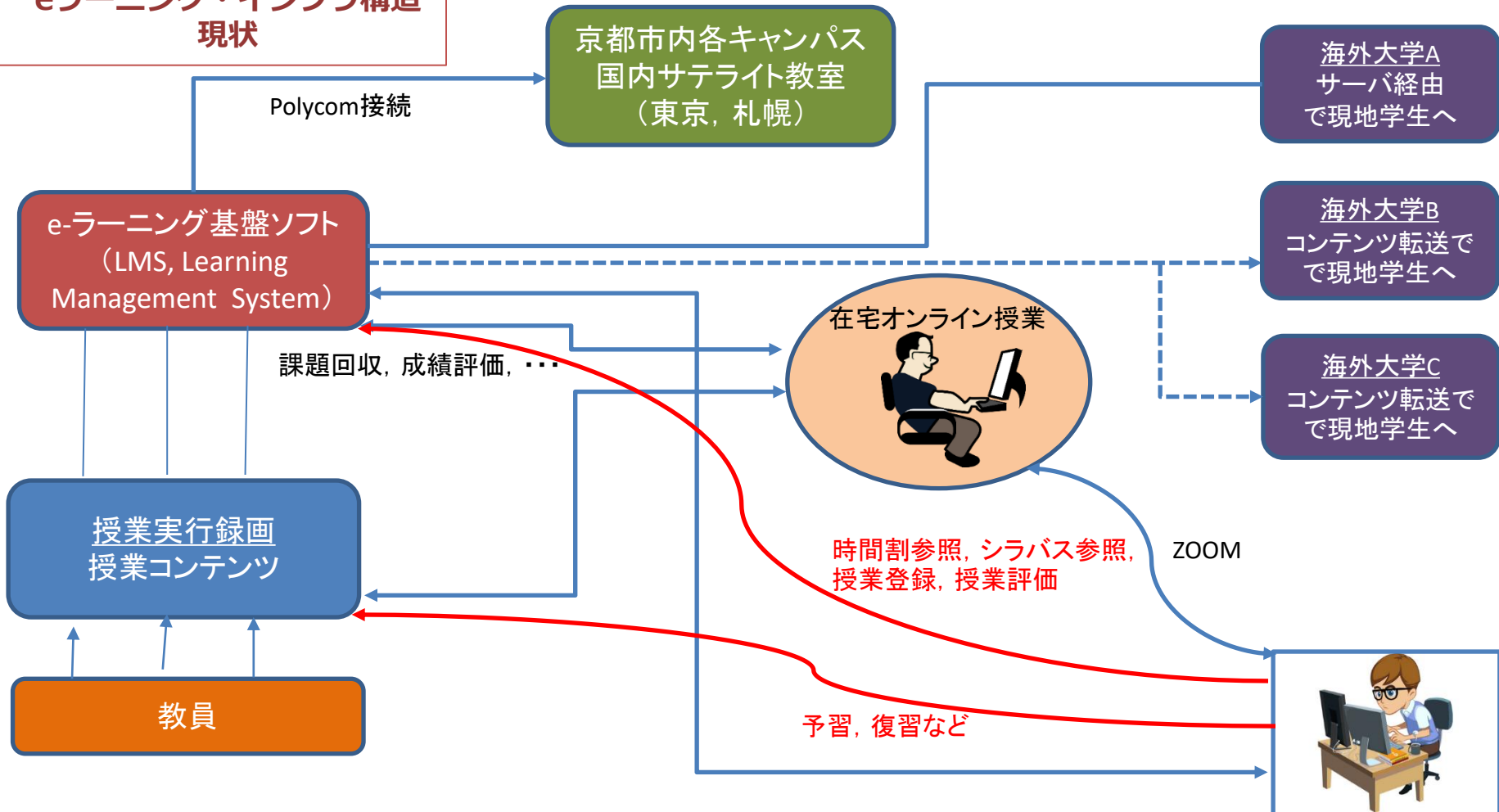
授業資源のデリバリー

- 教員・学生はKING-LMSで管理される授業資源を学校専用のデリバリーシステム経由で利用する。
- 在宅の学生を対象とする在宅オンライン授業の場合、授業のデリバリーは第三者ベンダーを用いることにした。
- このようなデリバリー手段としてZOOMを採用。
 - 複数の聴講生に対して対話機能が可能
 - 画面共有が可能
 - 授業の記録が可能

在宅オンライン授業



京都情報大学院大学における eラーニング・インフラ構造 現状



在宅受講生に要求される準備

- 在学生（2年生以上）の場合
少なくとも過去1年間の経験でKING-LMSへのアクセス・操作に不自由はない。
- ZOOMベースのオンライン学習の操作法に関しては，KING-LMSを通じて習得できる。

在宅受講生に要求される準備

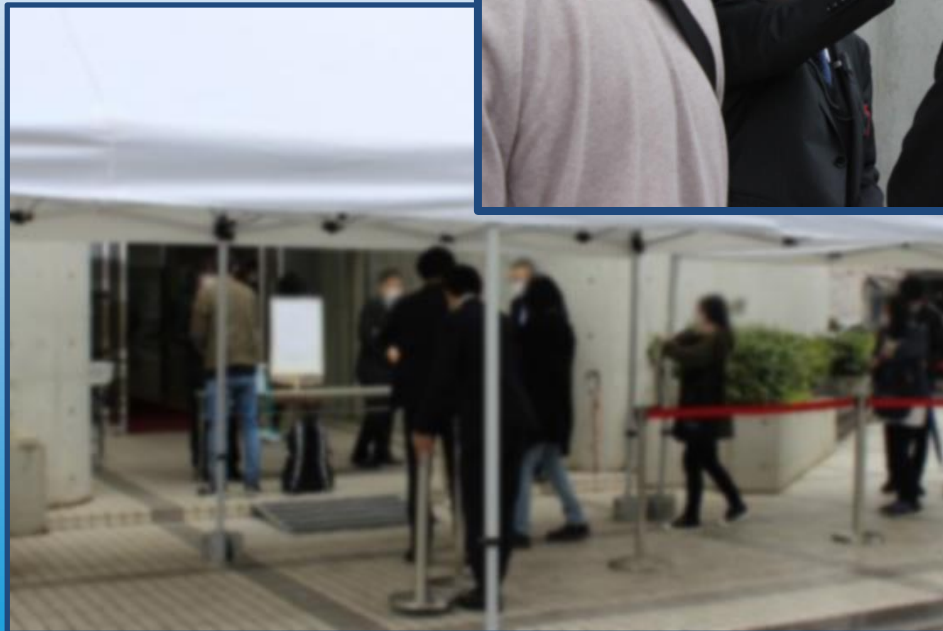
● 新入生の場合

- 学校側からの（在宅学生への）オンライン伝達は実質的に不可能
- コンピュータを持っていない学生も少なくない
（特に留学生の場合）
- コンピュータ新規購入も難しい
（サプライチェーン分断で）
- 対面の説明が必要
- 最大の難関である

教室でのオリエンテーション

- 学校施設への入館チェック
 - 健康状態
 - 留学生の場合は入国日
 - etc.
- マスクの着用
- 大教室を用いて社会的距離の確保
- 空気の流通への配慮
- etc.

新入生オリエンテーション



今年度春学期の授業計画

- 4月中旬に授業開始
 - 新入生以外の在生をを対象とする科目
 - 教科書等が準備できている科目
- 上以外は5月連休明け（5月7日）から
- 全クラス（約650クラス）をオンライン形式で

教員研修

- ZOOMについては初めての教員も多いので，その使用方法に関する教員研修を行った。
- 今回のオンライン授業の経験を生かして，今後の在宅授業（学生，教員共に）の展開が見込めるので，その展望について。
- 特に，最近提唱されている新しい教授法（反転授業など）を紹介し，その実践の奨励。

在宅オンライン授業の課題

- 複雑な実験，高度なソフトウェア等を含む授業
 - オンライン授業では基本的に不可能
 - （コロナ災禍が夏ごろまでは終了するという前提で）授業最後の方へ移動
 - 将来的にはシミュレーション，VRなどの技術を用いて解決すべきであろうか？

ご静聴有難うございました